

阿賀野市は文化・芸能が盛んな地域です。文化祭やコンサートなどを通じて収穫の喜びを皆で分かち合いましょう。今月号は10月号に引き続き、過去4年間の政策実現状況について報告します。

感染対策を万全にし、政府の全国旅行支援を 活用して県内外に出掛け英気を養いましょう!!

新潟県議会議員 帆苅 謙治

早いもので、8期目の当選を果たしてからもうすぐ4年が経過します。今月号は10月号に引き続き、4年前に掲げた決意、政策がこの4年間でどの程度達成できたのかを振り返ることとします。

なお、10月11日より政府の全国旅行支援が開始されました。全国各地、県内でも阿賀野市の五頭温泉郷を始めとする観光地も一杯のことです。

私 帆苅謙治は、県議会議員として7期28年に亘って築いてきた経験と国・県との人脈を活かし、そして長年地域の声に耳を傾けてきたことを基本として、4年前、次のような決意、政策を掲げました。

- 1 市民の幸せと安全・全安心を守る**
- 2 人口減少対策**
- 3 市の魅力アップ**
- 4 地場産業の活性化**

今月号は、**2の「人口減少対策」と3の「市の魅力アップ」**について取り上げます。

私は、以前より「都市」の基本要件は「総合病院があること」、「警察署があること」、「高校があること」の3点を必須と考えてきました。この3点は、ここで取り上げる人口減少対策、市の魅力アップの根底を支えるものです。

◎人口減少対策、市の魅力アップを図るための具体的取組

人口減少という社会現象は大変難しい課題です。阿賀野市を始めたとする地方で問題となっているのは、子供の出生数の減少と、特に、若者の流出によるものが大きいのです。

阿賀野市の将来を担う若者が地元に住み続け、または他地域からの移住を促進するためには、雇用の場を確保し所得を増やすこと、安心して子育てするための医療や教育環境の整備、障がい者や高齢者が生きがいと安らぎが得られる地域づくりが必要です。

以下に、これまでの取組の一部を紹介いたします。

①儲かる農業を目指して

これまでの農業は、高齢化や後継者不足、小規模経営、米価の低迷など、将来に明かりが見えない状況が続いてきました。

現在、阿賀野市でも圃場整備が順次進められ、圃場の集約と大規模化が図られており、生産コストの削減等による儲かる農業を目指しています。農業法人も多く起業し、若者の就業も増

加しています。

また、枝豆等の園芸作物の生産奨励や、牧場からの家畜排出物を農地へ施肥することによる肥沃な無農薬化土壌の拡大も進んでいます。



大規模化した圃場 (笹神地区)



最新鋭の枝豆集出荷選別施設 (笹神地区)

こうした施策の実現には、国からの補助率の高い圃場整備事業費の獲得、国、県、市からの補助金による枝豆集出荷選別施設の建設、牧場から農地への堆肥運搬費の無償化等に取り組んできた賜物と認識しています。

②東部産業団地への企業誘致

阿賀野市には、新潟県東部産業団地を始めとして企業進出が

すぐにも可能な用地が多くあります。



新潟県東部産業団地 (安田地区)

例えば、新潟県東部産業団地には、現在、24の企業が進出しています。分譲可能用地が約30haあり、新潟市や東港に近く、令和4年中に部分開通予定の阿賀野バイパスや磐越自動車等があり、交通の利便性が格段に優れています。しかも用地が低廉で地盤が強固です。

私は、今後とも県、市当局と連携して企業進出を進め、雇用の創出に繋がりたいと思います。

③あがの市民病院の充実、駒林特別支援学校の維持存続

阿賀野市唯一の総合病院が「あがの市民病院」です。急性期、慢性期、回復期医療を幅広く手掛けています。また、診療や介護機能等を集約させた多くのセンターを有しており、地域のハブ病院として機能しています。

医療や介護は、道路や上下水道等のインフラ整備、防災・減災とともに、市民生活には欠くことのできない存在です。また、新潟県立駒林特別支援学校は、多くの方々のご尽力の結果、平成22年に正式に認可されました。障がいを持つ子供たちが健やかに育っていく大切な場です。

私は今後とも、「あがの市民病院」の充実、「新潟県立駒林特別支援学校」の維持存続に最大限の力を注いで参ります。

④ 阿賀野高校の特色化

阿賀野市には高校が1つしかありません。しかも人口に占める生徒数は県内で最低です。このままでは存続も危うい状態であり、手をこまねいている訳にはいきません。



阿賀野高校を熱く語る
前校長 小畑智嗣氏

私も卒業生の1人として、阿賀野高校の活性化を様々な視点から考えてきました。それが、県や市当局と連携して打ち出した地域連携型の「総合選択制」です。

1年生は共通の授業で基礎学力の定着、2・3年生は卒業後の進路として就職・専門学校等への進学を目指す「地域探索コース」、大学・専門学校等への進学を目指す「教養コース」です。

生徒の個性を尊重した選択可能なシステムが令和2年度から導入されたのです。



阿賀野高校を熱く語る
現校長江川真氏と萩野教頭先生

また、夏季に実施される各企業へのインターンシップは5日間と県内で唯一長く設定されています。様々な職業への理解が一層進むものと期待されます。

しかし、生徒数の増加は一朝一夕には達成できません。今後とも阿賀野市民全体で息長く応援していきましょう。

なお、生徒達は数年前とは比較にならない程素直で、かつ積極的であり、大きく成長した姿が見られます。これも校長先生を始めとする先生方のご努力の賜物と考えます。

全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

市内の文化活動について紹介します(音楽)。

先日16日に保田の頼勝寺にてミニコンサートがあり、137名の方が演奏に魅了されました。住職の石川博英様にお話を伺いました。

お寺でコンサートを実施されているとのことですがとても斬新に感じます。どういったことで始められたのでしょうか。

「楽器そのままの音が聴きたい」と思ったことがきっかけです。2017年のことです。初回はギターとフルートの演奏会をやっていたのですが、生の音色に触れて心が震える感動を覚えました。以来、より大勢の方に聴いていただきたいとお寺の本堂で定期的開催することになりました。家族と友人で準備・運営を行い、概ね6月と10月の年二回計画しています。音楽好きの方ならどなたでも大歓迎で入場は無料です。

こういった曲目が組まれるのでしょうか。

プログラムは基本的に演奏家にお任せしますが、加えて、なじみのあるクラシックの曲や会場の皆さんと一緒に歌える曲で一体感を感じていただくような工夫をお願いしています。回を重ねるごとに参加される方が多くなり、最近では安田のみならず、阿賀野市内・五泉・新津や新潟市からもおいでいただくようになりました。

日々の暮らしの中で音楽を取り入れることの意味をどのように感じておられますか。

聴いたときの感動が強ければ強いほど「生きる」力になっていくと考えます。現代はストレス社会です。だからこそ心が元気になる「非日常」を経験していただきたいと思っております。

市内に音楽文化が根付くためにはどういった環境整備が必要と思われますか。

新潟市でこれまで実施されてきたラ・フォル・ジュルネ(市の助成と協賛、入場料で実



頼勝寺ミニコンサート風景

施)の取り組みが参考になると思います。関係団体(や市)が市民の皆さんのご理解をいただいで賛助金や市の助成金を確保する仕組みをどうつくるかがポイントになると思います。広報の仕方にも工夫が必要に思います。

演奏者の生活支援も重要になりますね。

演奏家の方は演奏して感動を届けることを生業としていきますので、まずは大勢の方に来場いただき生の演奏に触れていただくことが大事だと思います。

また、市内で活動されるアマチュア演奏家の方たち、次世代を担う若い中高生の方たちの発表の機会を増やしていくことも音楽文化が定着するうえで重要ではないでしょうか。

活動動画を発信しています。

大勢の方から沢山の反響を頂いています。



阿賀野市が元気になる、提案・意見をお寄せ下さい。

特定の思想・主義の主張や、他者への非難や批判ではなく、あくまでも建設的な内容に限ります。文字数は400字程度です。

ほかりけんじ事務所

〒959-2221 阿賀野市保田 737-2
TEL:68-5441 FAX:68-5515

http://www.hokaken.jp/